

### 3. まちづくり評価(福祉・環境・交流の評価)について

前ページまでは、まちづくり全体がどこまで進んでいるかという視点から、まちづくりプランのこれまでの進捗状況と財政状況について市民の皆さんにお知らせしましたが、ここでは、まちづくりを評価する上で、特にポイントとなるまちづくりプランの重点方向である「福祉」「環境」「交流」の3分野に絞って評価した結果をお知らせします。

具体的には、各々どういった内容なのか、どの程度達成しているかなどについて示した上で、「今後どのような施策を展開したほうがよいか」などについて評価します。評価にあたっては、市民の行政改革推進委員会の皆さんに行っていただきました。

なお、最後に行政改革推進委員会よりまちづくりに関する全体的な評価をいただきました。

\* 巻末の資料には、「福祉」「環境」「交流」に関連する指標・目標値の達成状況等の詳細を示した表があります。そちらもご覧ください。

#### 3つの重点方向 その1「福祉のまち」

##### 「福祉のまち」の目指すところ

(まちづくりプランP11より)

美唄市においては、人口の減少傾向が続く中、出生数の減少と、高齢者人口の相対的な増加が顕著になっており、子育て支援や高齢者福祉など、これまで以上に相互に支え合う地域づくりを進めていかなければなりません。

そのため、子どもたちが健やかに育ち、だれもが生涯を通じて健康で安心してらせるまち、やさしい心で支え合い、社会の様々な活動に楽しく参加できるまちを目指します。

##### 具体化するための重点施策

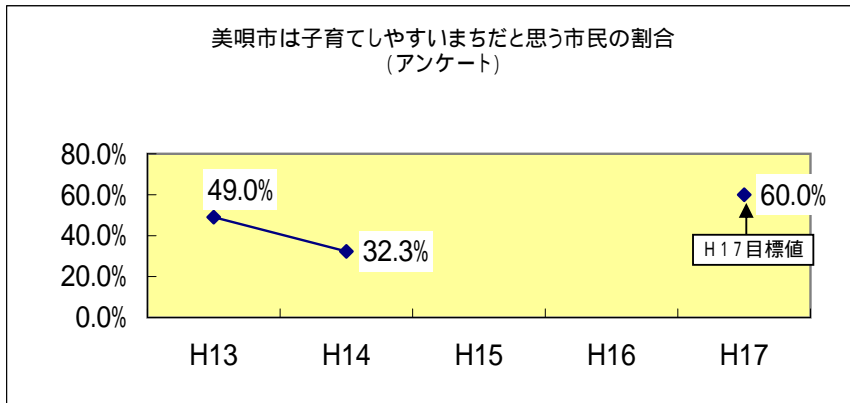
##### 福祉のまちづくりのための重点施策

(まちづくりプランP23より)

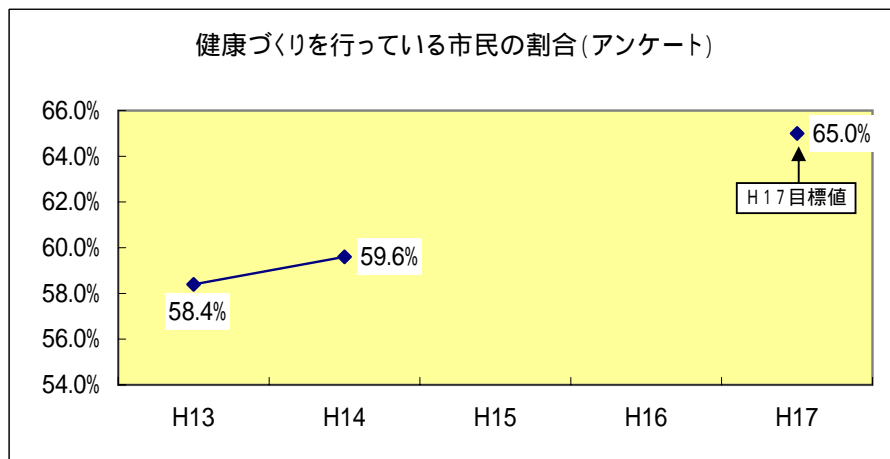
子どもたちが健やかに育ち、障がい者や高齢者などだれもが生涯を通じて健康で安心してらせ、社会の様々な活動に楽しく参加できるまちを目指し、次の施策を推進します。また、福祉のまちづくりの理念や市民と行政それぞれの役割などを示す「福祉のまちづくり条例」を制定します。

- ・総合的子育て支援の推進
- ・生涯にわたる健康づくりの推進
- ・バリアフリーなど福祉のまちづくりの推進

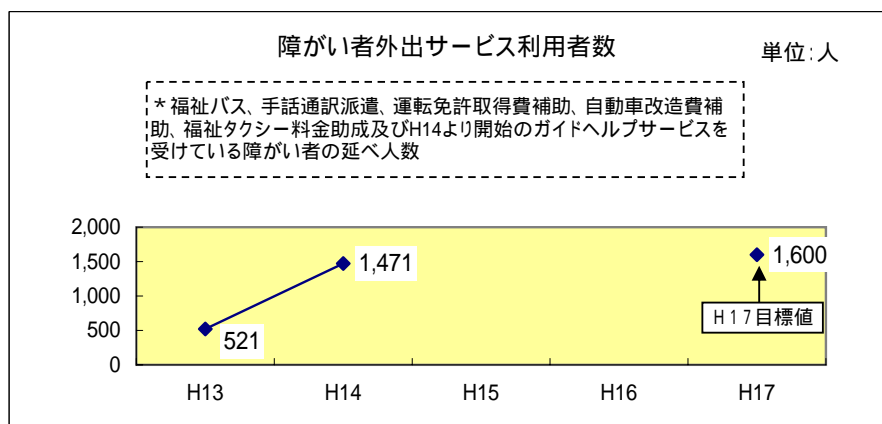
「総合的子育て支援の推進」の達成度を測るための代表的な指標



「生涯にわたる健康づくりの推進」の達成度を測るための代表的な指標



「バリアフリーなど福祉のまちづくりの推進」の達成度を測るための代表的な指標



\* 「福祉のまちづくり」に関連する指標は全部で47指標あります。全体の傾向及び詳細は資料編をご覧ください。

参考：福祉のまちに関連するデータ（ほかの「まち」と比較すると）

安心度 全国で363位

\*美唄市363位（調査対象全国の700都市～東京特別区含む）

\*「安心度」人口当たりの病床数、65歳人口あたり特養ホーム・老人保健施設定員、出生数の偏差により算出）（都市データパック2003年版～東洋経済新報社）

国民健康保険診療費（1人当たり～H12年度） 1人当たり医療費が全道平均を上回る

\*美唄市：292,003円、北海道平均：275,207円、全国平均：218,254円

《出典：国民健康保険の実態（平成13年度版）国民健康保険中央会・都道府県国民健康保険団体連合会～H12年度国民健康保健被保険者1人当り療養（医療）諸費用額》

身体障がい者手帳交付数 身体障がい者手帳交付数が全道平均を上回る

\*H12年度人口千人当たり手帳交付数 美唄市：58.2人、北海道平均：47.5人、全国平均：33.8人 《H12年度：身体障がい者手帳交付数（人口千人当たり）出典：北海道及び全国平均は社会福祉行政業務報告より》

身体障がい者更生援護施設定員数 定員数が全道平均を上回る

\*H12年度：身体障がい者更生援護施設定員数（人口10万人当たり）

美唄市：259.8人、北海道平均：62.0人、全国平均：40.4人

民生委員（児童委員）数 人口当たりの委員数が全道平均を上回る

\*H12年度：民生委員（児童委員）数（人口10万人当たり）《出典：北海道及び全国平均は社会福祉行政業務報告》 美唄市：269.6人、北海道平均：212.8人、全国平均：169.7人

民生委員（児童委員）1人当たり相談・指導件数 相談・指導件数が全道平均を上回る

\*H12年度：民生委員（児童委員）相談・指導件数（民生（児童委員）1人当たり）《出典：北海道及び全国平均は社会福祉行政業務報告》

美唄市：363.6人、北海道平均：51.7人、全国平均：61.1人

## 「福祉のまち」の評価（行政改革推進委員会の評価）

### 現状評価及び今後の施策のあり方等について

- この重点方向に関する目標達成度については、総体的にはおおむね目標に向かって進んでいることがうかがえる。
- 福祉のまちづくりは、自助・共助・公助を通じて誰もが安心して暮らせる地域社会をつくることである。病気になった場合や出産の際に、診療科によってはすぐに専門医の診察を受けられない状況では、安心して暮らせる地域社会にほど遠いと言わざるを得ない。地域医療の充実が福祉のまちづくりのための最優先課題であることを十分認識し早急に改善すべきである。

- ・ 少子高齢社会においては、保健・福祉・医療の連携が重要であり、医療の充実はもとより、健康づくりや介護予防の取り組みを充実させていくことが必要である。
- ・ 障がい者福祉については、障がい者ガイドヘルプ事業など社会参加を促進する取り組みが徐々に充実されてきており評価できる。
- ・ 昔から美唄に住んでいる人は気が付かないかもしれないが、転勤などにより美唄に移り住んでみると、障がいのある方が街中にいても一般市民の対応に違和感がなく、ノーマライゼーションが進んでいる地域だと感じている。これは養護学校を始め、古くから多くの福祉関連施設や障がい者を雇用する事業所があることと関係していると思うが、こうした地域性は福祉のまちづくりを進める上で重要な要素だと思う。
- ・ 福祉は特別な人だけの施策ではなく、むしろ私たちみんなに病の可能性や老いがあるように、自分たちの問題としてとらえる必要がある。必要な施設での治療等の期間を除き、住み慣れた地域でいつまでも暮らしたいと願う気持ちを可能な限り実現させていくためには、病院での治療や必要な福祉サービスを受けるだけでは、24時間、365日、地域で安心して暮らしていくことに限界がある。しかし、地域でのとなり近所の見守りやつながりがあれば、心強く感じ、安心して暮らすことができると思われる。このため、日々の暮らしの安心を住民同士の支え合いと行政からの支援とにより進めようとしている地域福祉計画に基づいた仕組みづくりを、そこに住む地域住民とじっくりと作り上げていくべきである。
- ・ 子育て支援センター開設や子育てサークルの増加など、子育て支援が順調に進んでいると感じており評価できる。また、子どもの健やかな成長を支援する活動は、行政ばかりでなく、地域全体で子育てを支援することが必要である。これまでも一部の地域においてお年寄りと子どもたちとの交流や地域における見守りなどが行われてきているが、地域の中で話し合いながらこうした活動を行うことによって、防犯や非行防止などの活動につなげていくなど子育てを地域で支える取り組みをさらに進めていくことが必要と考える。
- ・ 一部の福祉サービスについては、利用者の満足度調査が行われていると聞いているが、福祉分野についてはサービスの対象となる人の状況がさまざまであるため、高齢者や母子家庭、障がい者（知的障がい者、身体障がい者、精神障がい者）など対象を絞り込んだニーズ把握をした上で、行政がかかわるもの、地域がかかわるもの、受益者個人やその家族が行うべきもの（受益者負担を含む）などを考えながら施策の展開を図る必要がある。

3つの重点方向  
その2「環境のまち」

「環境のまち」の目指すところ

(まちづくりプランP11より)

美唄市は、豊かな自然に恵まれています。今後もこの恵みを楽しむために、自然を貴重な資源として保全していくとともに、安全性や快適性の確保など、人の営みと自然を調和させていかなければなりません。

そのため、環境への負荷を少なくし、かけがえのない自然を守り、安全で快適な環境を整えて、未来に引き継ぐまちを目指します。

具体化するための重点施策

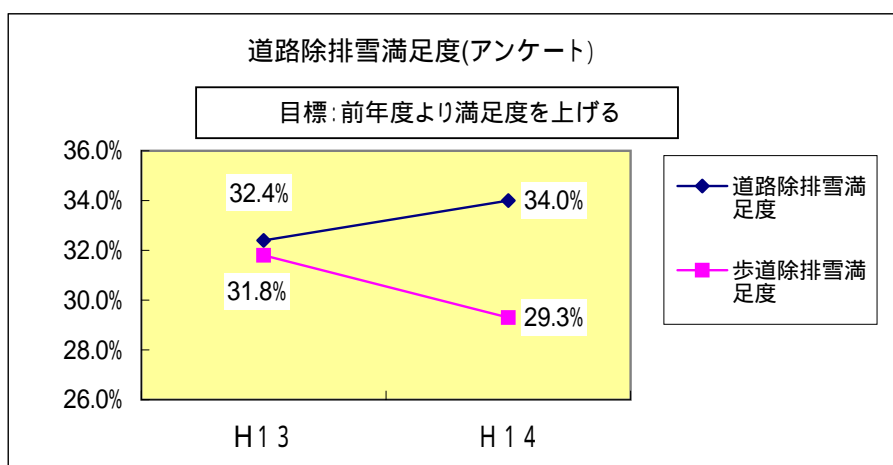
環境のまちづくりのための重点施策

(まちづくりプランP23より)

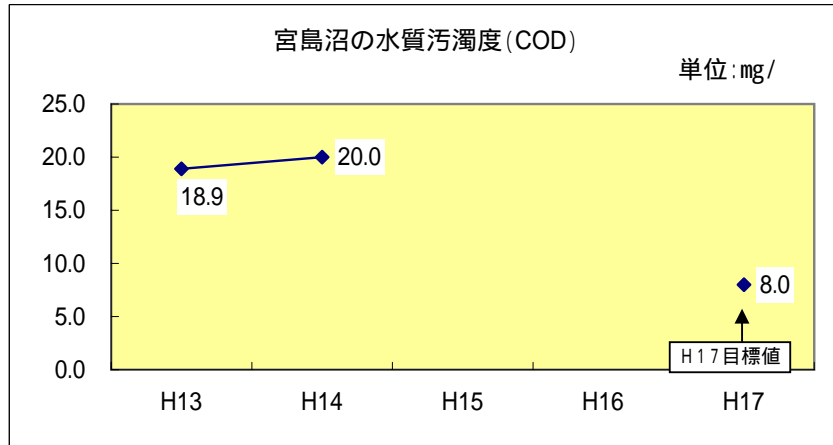
環境への負荷を少なくし、資源を循環させ、かけがえのない自然を守ることにより、安全で快適な環境を整えて、未来に引き継ぐまちを目指し、次の施策を推進します。また、市民、企業、行政が連携して、緑づくりや環境に配慮した活動を進めます。

- ・ 快適な冬のくらしの実現
- ・ 宮島沼の自然環境の保全
- ・ 循環型社会の構築

「快適な冬のくらしの実現」の達成度を測るための代表的な指標



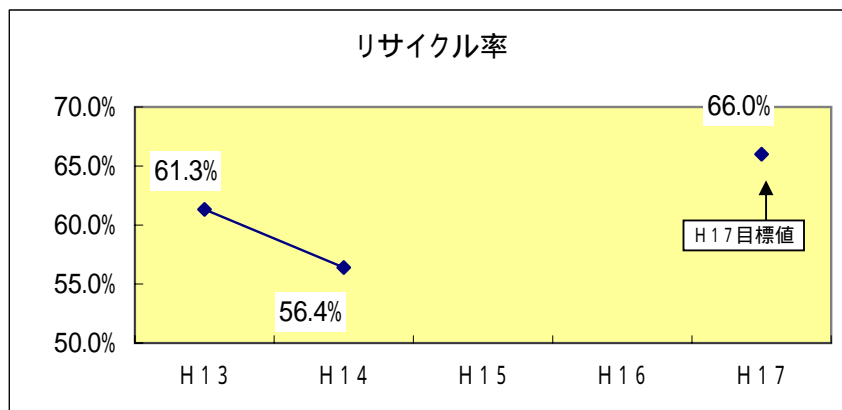
「宮島沼の自然環境の保全」の達成度を測るための代表的な指標



国設鳥獣保護区数～目標1カ

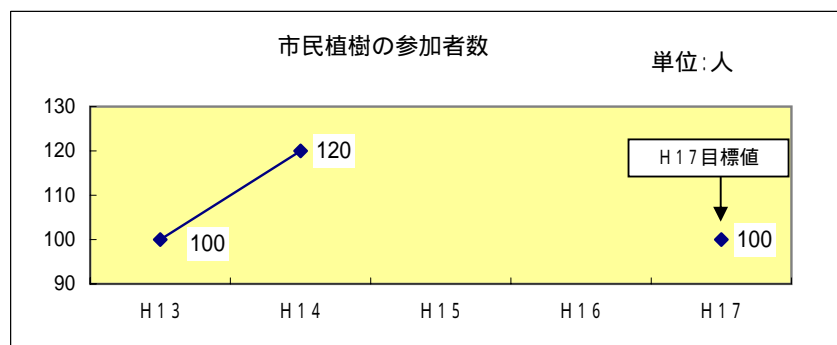
宮島沼は平成14年11月1日に国設鳥獣保護区に設定され、その目標を達成することができました。

「循環型社会の構築」の達成度を測るための代表的な指標



\* リサイクル率 = 資源ごみ処理量 / 資源ごみ潜在量 (資源ごみ収集量 + 可燃・不燃ごみ中の資源ごみ量)

「緑づくりや環境に配慮した活動」の達成度を測るための代表的な指標



\* 「環境のまちづくり」に関連する指標は全部で26指標あります。全体の傾向及び詳細は資料編をご覧ください。

参考：環境のまちに関連するデータ（ほかの「まち」と比較すると）

一般廃棄物のリサイクル率 リサイクル率は全道平均を上回る

\*H12年度：一般廃棄物のリサイクル率（リサイクル量／ごみ全体量）《出典：北海道及び全国平均は社会生活統計指標》 美唄市：11.16%、北海道平均：9.8%、全国平均：14.3%

住民一人当たりごみ排出量 1人当たりごみ排出量は全道平均を下回る

\*H12年度：住民一人当たりごみ排出量（年間総排出量／ごみ処理人口）《出典：公共施設状況調査》 美唄市：0.49トン、北海道平均：0.52トン、全国平均：0.42トン

公害苦情件数 公害苦情件数ゼロ（全道平均を大幅に下回る）

\*H12年度：公害苦情件数（典型7公害、人口10万人当たり）《出典：北海道及び全国平均は公害苦情調査結果報告書より》 美唄市：0件、北海道平均：20.9件、全国平均：50.3件

1人当たり都市公園面積 全国99位

\*1人当たり都市公園面積（都市データパック2003年版～東洋経済新報社）美唄市99位（調査対象全国の700都市（東京特別区含む））

### 「環境のまち」の評価（行政改革推進委員会の評価）

#### 現状評価及び今後の施策のあり方等について

- ・ 道路の整備については、限られた予算の中で行うのだから、今策定中の美唄市総合交通体系基本計画を早急に完成させて、重要度・有効性・住民要望等から、道路整備の優先度の透明性を確保した中で決定していくことが今後の取組みとして必要と考える。
- ・ 交通体系の整備については、施策の対象がバス利用者になっていることから まちづくり市民アンケートの結果だけではなく、市民バスの利用者からのモニタリング（アンケート）が必要であり、それにより運行路線や停留所の設置箇所の改善に活用すべきと考える。
- ・ 冬期活動の確保では、除排雪はよくなったという私たちの実感とまちづくり市民アンケートの結果が一致する。
- ・ 宮島沼が国の鳥獣保護区に指定され、ラムサール条約の登録湿地になったことは喜ばしいことだが、それだけでは指定されたという事実だけである。今後は平成14年3月に市が策定した宮島沼保全活用計画を官民一緒になって着実に進めていくことが必要と考える。

- ・ ゴミ排出量の抑制などの問題に関しては、市民一人あたりのリサイクル率では全道平均を上回っているが、ゴミ排出量に顕著な抑制効果はまだ現れていない。このため、最終的にゴミ排出量の抑制につながるような長期展望を持って、資源ゴミのリサイクル率をあげるための効果的な施策展開が必要と考える。
- ・ 公園緑地の整備、緑化の推進及び環境行動の推進では、ポイントとしては、せっかく整備した公園をどういう風に気持ちよく使える状態を保っていくか（できれば低コストで）ということが課題である。現状を前提にして考えた場合、ある程度大規模な公園と町内会が管理している比較的小さな公園とを二つに分けて、それぞれ市民参加のあり方や行政のかかわり方を考えていくべきである。  
また、植樹活動の参加者数も単純に人数だけを問題としないで、参加者の動機、参加しての満足度について参加者アンケートを実施して評価すべきと考える。
- ・ 森林の維持と活用ということでは、全然使われていない学校林を活用して、子どもたちの緑教育という部分も考えていったほうがよいと思う。

### 3つの重点方向 その3「交流のまち」

#### 「交流のまち」の目指すところ

（まちづくりプランP11より）

市民が様々な分野で世代や地域、産業をとおして交流を深めていくことで、生活の中での充実感や新たな産業の展開につなげていくとともに、美唄からの情報発信によるまちの個性化を図っていかねばなりません。

そのため、新しい時代を担う人づくりを進めるとともに、一人ひとりの個性と能力が十分に発揮できる環境を整え、自然や歴史、文化、産業など様々な分野で交流が広がり、活力と魅力があふれるまちを目指します。

具体化するための重点施策

#### 交流のまちづくりのための重点施策

（まちづくりプランP23より）

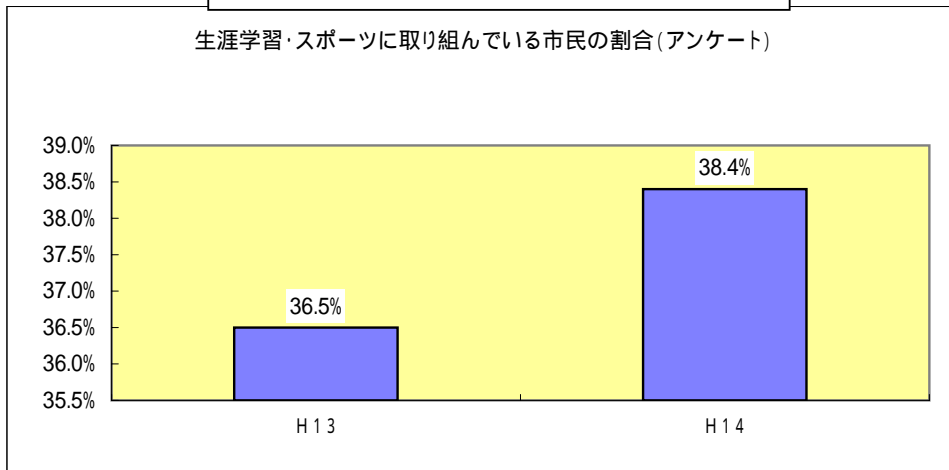
多彩な人材を育てるとともに、一人ひとりの個性と能力が十分に発揮できる環境を整え、自然や歴史、文化、産業など広い分野で交流が広がり、活力と魅力あふれるまちを目指し、次の施策を推進します。また、「スポーツ・レクリエーションの里づくり構想」を進め、美唄のあらゆる地域資源を活用し、地域の活性化を図ります。

- ・ 生涯学習活動の推進
- ・ 高度情報化の推進
- ・ 交流拠点施設の整備

## 「生涯学習の推進」の達成度を測るための代表的な指標

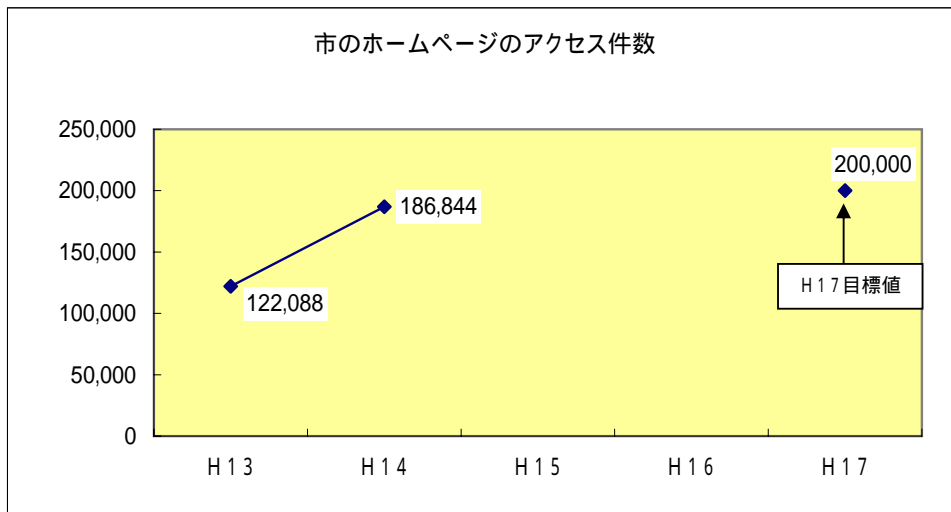
目標: 前年度より取り組んでいる割合を上げる

生涯学習・スポーツに取り組んでいる市民の割合(アンケート)



## 「高度情報化の推進」の達成度を測るための代表的な指標

市のホームページのアクセス件数



## 「交流拠点施設の整備」の達成度

交流拠点施設の整備の達成度は、「交流拠点施設」の完成・オープン(目標値:1ヵ所)ですが、H14年度は工事中でした。なお、交流拠点施設(「ピパの湯ゆ～りん館」)はH15年12月に完成・オープンしました。

\* 「交流のまちづくり」に関連する指標は全部で16指標あります。全体の傾向及び詳細は資料編をご覧ください。

参考：交流のまちに関連するデータ（ほかの「まち」と比較すると）

情報化の取り組み 全道5位

\*行政情報化の進展度合いを比較する「日経パソコンe都市ランキング2003」で美幌市は回答のあった2,640自治体中、総合で201位で、北海道27市中では総合5位にランク。（調査対象：全国の市区町村（3,209自治体）、回答率82.3%、調査概要：雑誌「日経パソコン」において自治体の情報化担当者へのアンケートを基に順位づけを行ったもの。調査項目に「インターネットでの情報・サービスの提供、住民からのメールへの回答」などのほか、行政内部の情報インフラに関する項目もある。）

観光客 空知管内10市中最下位

\*観光入込客数（H14年度） 空知管内10市中10位（北海道観光入込客数調査報告書H15年7月）

## 「交流のまち」の評価（行政改革推進委員会の評価）

### 現状評価及び今後の施策のあり方等について

- ・ この重点方向に関する目標達成度については、総体的にはおおむね目標に向かって進んでいることがうかがえる。
- ・ 個別には、「生涯学習やスポーツに取り組んでいる市民の割合」は、市で実施している市民アンケートでは約4割が取り組んでいると回答しており、対前年比においても、わずかに上っている。
- ・ 従来、市が直接舞台芸術、音楽等の上演を実行してきた「市民会館自主文化事業」を、市民による文化事業上演実行委員会「市民劇場」が平成15年9月から実施している。このような市民手づくりの文化活動をさらに進めていく必要がある。
- ・ 高度情報化の推進では、参考データ（日経パソコンe都市ランキング）を見ると一定の成果を上げているのがわかる。
- ・ 市のホームページのアクセス件数は多くなってきており、単なる情報発信ではなく、例えば市民や各種団体、サークル、同窓会等で作成したホームページを市の関連するホームページとリンクさせて市内外の交流を促進させていく仕組みをつくるなど、何かにつなげていく意図をもった情報発信を心がけながら内容の充実を図るべきである。
- ・ 国際交流については、「ホームスティする外国人数」の把握の仕方を工夫して民間ベースでの

活動を把握し、民間の国際交流活動と連携しながら「国際交流の促進」の展開に努めることが必要と考える。

- ・ 道内のある高校では、生徒に観光案内をさせていると聞いている。教育的な面もあると思うが、若年層の交流の一環として美唄でも取り組むことも必要かと考える。
- ・ 美唄市は、観光入込客数では平成14年度では空知管内10市中10位となっており、H14年11月にラムサール登録湿地となった宮島沼やH14年度に約2万6千人の入場者実績を持つアルテピアッツァ美唄など、多くの地域資源を持ちながら生かしきれていない面がある。
- ・ 平成15年12月に交流の拠点となる温泉施設がオープンしたが、単なる温泉施設に終わらせることなく、多くの地域資源を結びつけて市内外の交流を促進するための方策をとることが必要である。たとえばアルテピアッツァ美唄など多くの人が訪れる施設で来訪者アンケートなどを行い、市内、市外別の来訪者ニーズを把握し、来訪者がその施設等にとどまらず、美唄山、炭鉱遺産、宮島沼、パークゴルフ場、ふるさとの見える丘、食の面では焼き鳥、鳥めしなど、多くの美唄の魅力にふれてみたい（行ってみたい、食べてみたい）と思うようなプログラムを作る必要がある。

### まちづくり全体評価（行政改革推進委員会の評価）

#### 現状評価及び今後の施策のあり方等について

- ・ 前期基本計画の開始年度から2ヵ年しか経過していないこともあり、目標を達成している項目は少ない状況である。しかし、多くは目標達成率が50%から90%の中に入っており、2年目としてはおおむね目標に向かって進んでいると考える。
- ・ 市民の施策満足度の把握や今後の施策展開の参考とするために、市民アンケートを実施しているが、そうしたアンケート結果を生かすためにも、対象者の絞り込みを十分行うとともに、きめ細かなニーズを把握した中で施策の展開を図るべきである。
- ・ 定住促進策については、温泉施設や宮島沼、アルテピアッツァ美唄など、市外からの交流人口を多くするためのプログラムを充実させながら、交流人口を将来的に定住人口の増加につながるような施策の展開が必要である。

・ 昨年の市町村合併に関して市民アンケート結果等を受けて美唄市は自立を選択した。これによって、美唄市民は自らの手でまちづくりをする決意を内外に示した。

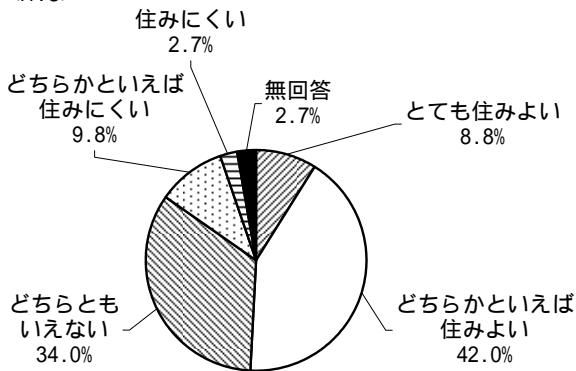
これからは、厳しい財政状況の中で、市民、地域及び関係団体と市が連携して「協働」のまちづくりを推進しなければならない。

その際に、施策の優先順位を決めていかなければならない場面が出てくると思うが、そうした場合に市は説明責任を果たしていきながら、市民との対話の中で施策の優先度・重点化を図る必要がある。私たち市民も、サービスのあり方について発想を転換し見直しすることはもちろん、市も自立のためのリーダーシップを発揮し、市民合意を前提にした無駄のない施策展開をしてもらいたい。

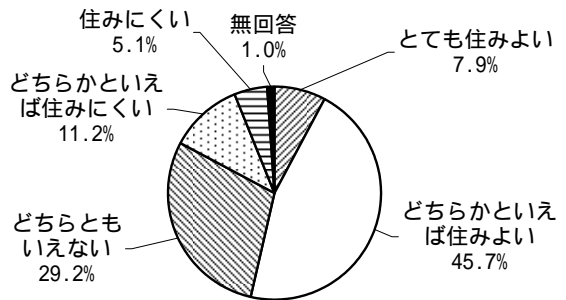
### <美唄市の住みよさについて> まちづくり市民アンケート結果より

あなたは、美唄市は住みよいまちだと思いますか。

<H15>

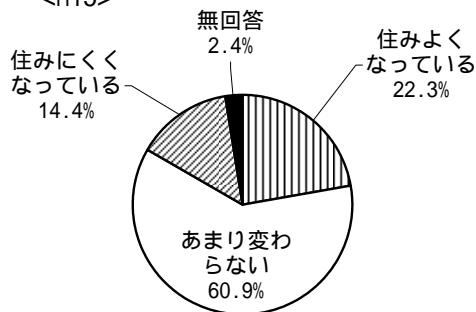


<H14>

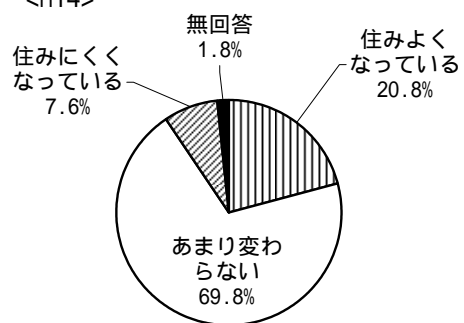


美唄市は年々住みよいまちになっていると思いますか。

<H15>



<H14>



美唄市行政改革推進委員会委員名簿

氏 名	備 考
かどわき ただお 門 脇 忠 夫	会 長
すずき ひろあき 鈴 木 裕 章	会長代行
すずき しげたか 鈴 木 重 孝	
あんど う なおき 安 藤 直 樹	
はない たかよし 花 井 敬 芳	
すずき みつえ 鈴 木 光 永	
みやにし かずよし 宮 西 一 好	